

# ■「北方海域技術研究会 令和元年度 技術研究発表会」を開催しました

国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒冷沿岸域チーム、水産土木チーム

2019年12月20日に当研究所講堂において、「北方海域技術研究会 令和元年度 技術研究発表会」（主催：日本技術士会北海道本部北方海域技術研究委員会、寒地土木研究所）を開催しました。本研究発表会は、港湾・水産関係技術者の技術力向上をめざして、毎年開催しており、技術者同士の交流の場としても貴重な機会となっています。日本技術士会北海道本部と当研究所は2011年11月に「連携・協力協定」を締結しており、連携行事の一環でもあります。

当研究所水産土木チームの石井首席研究員は「オリンピック・パラリンピックと水産環境認証制度、そして水産土木チームの取り組み」と題し、東京2020大会での持続可能性に配慮した水産物の調達基準や、水産エコラベルの導入における課題などについて講演を行いました。また、寒冷沿岸域チームの岩崎研究員は「海洋漂流物の輸送過程」と題して、日本海でのマイクロプラスチックの輸送過程、および北米西岸設置ウェブカメラと粒子追跡モデルによる3.11震災漂流物の解析について講演しました。

株式会社西村組の旭幸司工務係長より「海上施工における最近の取り組み～台船積載量計測システムと魚礁移設工法～」と題して、オホーツク海の施工事例をもとに、UAVを用いた3次元写真測量による台船上の浚渫土砂の土量計測手法、および円形型魚礁などを移設する手法について講演されました。

また、道総研中央水試 資源管理部 海洋環境グループの奥村裕弥研究主幹は「海洋観測のICTの進展とセンシング技術の展開―道総研の取り組みを中心に―」と題して、情報基盤の高度化に伴う海洋観測技術の移り変わり、道総研の観測データの利活用の実例について講演されました。

各講演とも興味深い内容であり、会場では活発な質疑が交わされ、この発表会への関心の高さが感じられました。今回の研究発表会には北海道開発局、寒地土木研究所、民間企業等より約60名の参加がありました。主催者の一員として、ここに記して謝意を表します。



写真－2 旭幸司氏の講演



写真－1 会場の様子



写真－3 奥村裕弥氏の講演